



平成 24 年 1 月 30 日

奈良市長 仲川 元 庸 様

奈良市クリーンセンター建設計画策定委員会
委員長 渡邊 信



奈良市クリーンセンター建設計画策定委員会よりの意見

2011 年 3 月 2 日に、奈良市クリーンセンター建設計画策定委員会は、市長宛の答申を出した。骨子は、以下の 2 点である。

2 カ所を提示する

道路問題には、市が主体的に関与してほしい

これまで約 1 年が経過したが、外面的には、ほとんど、状況が変わっていない。左京地区の現クリーンセンターの老朽化は進み、新クリーンセンター建設まで、猶予はない。2011 年には、処理しきれずに屋外に「貯留」されるごみの山が出現した。

また、東部地区との話も十分にできない理由が道路問題にあり、それらを進展させるべく、市長宛の意見を、下記の通り、申し入れたい。

■ 2 カ所から 1 カ所への絞り込みをお願いしたい

委員会が候補地として 2 カ所選定した理由は、奈良市が地元の意向を尋ねる糸口として有効であると期待したためであった。しかし、10 ヶ月を経た現在も、奈良市による絞り込みに至っていない。いずれの土地を選定されるかを本年度末までに決定いただきたい。

■ 道路行政のカベを乗り越えてほしい

東部地域との話し合いを行うためには、市から道路問題への積極的な提案をする必要がある。般若寺交差点以東については、大型車の通行が増加傾向にあり、さらにごみ収集車の通行が上乘せされることが予想される。そのため、安全のための改修を、市から地元へ胸を張って提示すべきである。これまで委員会が実施した調査によれば、般若寺交差点と国道 369 号線の安全改修等が妥当であるとする。

道路問題については、「市が県にお願いする」形で、市に努力をしていただいたが、「国道が県の管理下である」ことと、他の道路と比べての渋滞緩和等の面で、当該道路改修の優先度は低いということであった。すなわち、制度上、市が国道の整備に主体的に関与することはできない。

しかし、「市が資金を用意して、県に、国道の改修を申し入れる」図式であれば、道理の通る話ではないか。このように、制度のカベを乗り越えることこそ、市長に実施していただきたい。スピードも重要である。期限を記した行程表を、本年度中に明らかにしてほしい。

■ 全市民をあげて早急に解決すべき問題である

現有の施設は左京地区にある。委員会が提示した候補地は東部地域である。これら以外の地域は、恩恵を受けるわけであるから、ひろく市民に、応分の協力と負担を呼びかけてほしい。すなわち、全市民が、この問題を自分のこととして認識して、リデュース・リユース・リサイクルをさらに推進してほしい。

施設の老朽化は着実に進み、近い将来「もう、焼却を続けることができない」という状態になるであろう。早く次の施設の目処をたて、世界に誇る歴史都市が持続可能な仕組みを持ち、あらためて、世界から尊敬されること、すなわち市長のリーダーシップを望むものである。